

しかし、それは文字を変えてよい理由には決してならない。

私たちは、祖先の人々が用いて来た文字を、現在に受け継ぎ、これをそのままに子孫に伝えようと努力しています。私たちは、祖先から受け継いで来た文字を、改めようとする運動に対しては、極力反対しています。

これに対して、国語改革論者は「文字は変化する。この変化は、人力を以て防ぎ止めることはできない。変化しようとする文字を、変化させまいと、無駄な努力をしている愚かな人々よ」と、彼らは私たちの努力を嘲笑しています。文字の変化するのは事実であり私たちが変えまいと努力しても変化するのも事実です。しかし、それは、文字を人為的に変えてよい理由には少しもならない、ということを知らなければなりません。人が老いて衰えて行き、やがて死ぬ運命にあることは事実ですが、そうだからと言って、それが自ら命を縮めて良い理由には少しもならないのと同じです。老い、やがて死ぬべき命であるが故に、その自然の推移に抵抗して、少しでも長く若さを保ち、一日も長く生きようと努力するのが、人の道というものでしょう。

文字は変る。しかし、変るのを好んで変っているわけではありません。人間の死のごとく、それは免れがたい変化、止むを得ない変化なのです。文字の果す仕事の効果を考える時、「不変性」は文字の悲願なのです。文字もまた、人間と同じように変化を嫌いながら、変化を余儀なくされているのです。

医師が、老病死苦をこの世から無くすことを悲願としていますように、私たち国語教育に当る者は、文字や言語を変化から守ることを悲願と

しています。変化しようとする文字や言語を、少しでも変化を食い止めようと努力すること、それが「国語教育」というものではないでしょうか。祖先の言葉をそのまま、子孫に伝えて行く、これが現在に生きる私たちに課せられた任務だと思います。それは今のところ、空しい努力ではありますが、そして悲しい努力ではありますが、現在に生きる私たちがしなければならない尊い使命だと、私は信じています。

だから、私たちにとって、国語改革論者は、国語教育界における悪魔だと思っています。この悪魔は、その憎むべき行為を、美しい言葉で飾り、人々を欺き隠しています。世の多くの人々は、危くその口車に乗せられて、破壊の淵に足を踏み入れようとしています。死の美しさを讃美して、前途有為の若者たちを死の淵に誘い込む悪魔のように、国語改革論者は、「言葉や文字を変える」ことの、どんなに気高い行為であるかを、巧みに説くので、人々の中には、この誤った道に足を踏み入れる者が多いのです。彼らが好んで使う言葉は、「しばらく不便を忍ぼう。将来の日本のために、かわいい子供たちのために」という言葉です。なるほど、私たちは、子供たちのためとあらば、どんな不便も苦痛も甘んじて耐え忍ぼうとするものです。それに、これを否定したり、反対したりしようものなら、親の名に値しない人でなしと軽蔑されるでしょう。だから、「子供たちのために不便を忍ぼう」という掛声には、人々は動かされやすいのです。悪魔は、人々のこの弱点をよく知っていて、巧みにこれを突くのです。

しかし、私たちは、悪魔の言葉をよく批判しなくてはなりません。本当に子供のためになるものかどうか。過去の文化から切り離されることが、真に日本の将来のためになるものかどうか。